

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 4, No. 4 神奈川県立 生命の星・地球博物館 Dec., 1998



火山豆石

—幻の湘南火山帯のゆくえ—

横須賀市長井町松ヶ崎

平田大二 (学芸員)

松ヶ崎の海食台には、三崎層とよばれる約600万年前の海底に堆積した地層がみられます。粒の大きさは違いますが、ほとんど火山の噴出物からできている地層です。その中に、火山豆石と呼ばれる直径1cmほどの球状のものを大量に含む層があります。火山豆石とは、火山灰でできた変り玉のようなものです。中心部はやや粗い火山灰や小さい礫でできていて、そのまわりを幾重にも細かな火山灰の膜がつつむ同心状の構造をしています。三崎層

の火山豆石は、海底火山の爆発的な噴火によって海面上に舞い上がった火山灰が、噴煙柱の中で集まり固まってきたもので、噴火口から半径20km以内に堆積したものと考えられています。しかし、今は近くに火山はありませんし、その面影もありません。では、火山豆石をはじめ大量の噴出物を出した火山はどこへ行ってしまったのでしょうか。

幻の湘南火山帯、それは実在したのでしょうか？